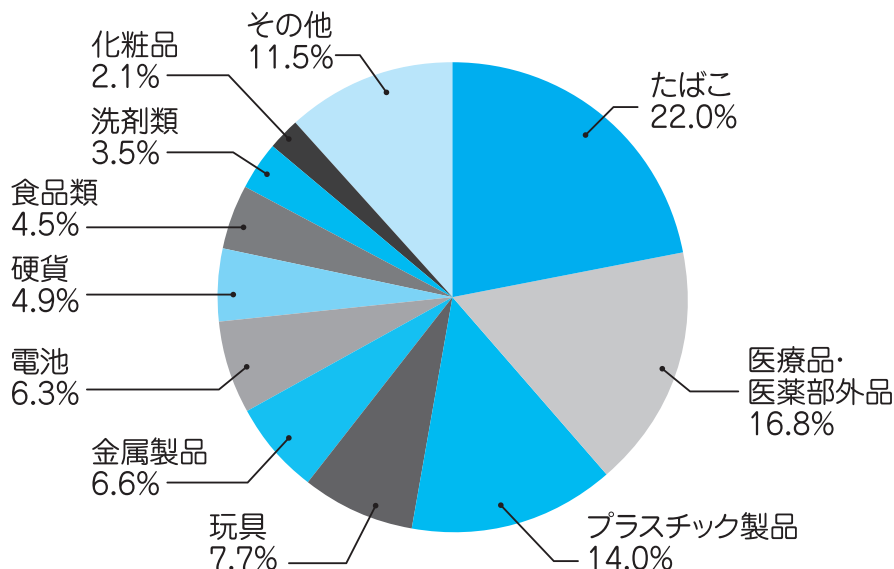


子どもの事故を予防しよう！（誤飲）

自分で危険を判断できない子どもは、さまざまな事故やけがと隣り合わせです。成長の時期によって、周りの大人が注意しなければいけない事故は異なります。子どもの誤飲事故は生後7～8か月頃から急増し、4歳頃までよくみられます。特に10か月くらいになると、手にしたものを何でも口に運ぶようになります。子どもが順調に成長している証ですが、誤飲の危険性は高くなるため、大人が十分に注意してあげましょう。

家庭用品等による子どもの誤飲事故の状況



誤飲事故の原因として最も多いのは、たばこです。薬やプラスチック製品、おもちゃ、ボタン電池、硬貨、洗剤や化粧品なども注意が必要です。

【平成27年度 厚生労働省 家庭用品などに係る健康被害病院モニター報告より】

● 誤飲事故の予防

- ・ 子どもの手の届く範囲に子どもの口に入るものを置かない。
- ・ 小さなおもちゃや部品などは子どもの口に入れさせない。
- ・ おもちゃは使用後すぐに片づける。
- ・ 薬品類は子どもの目に触れない場所や手の届かない場所に保管する。

● 応急処置

- ・ いつ、何を飲んだか確認しましょう。薬剤などの液体は減った量を誤飲した分と考え、正確な量を把握しましょう。
- ・ 咳きこみ、吐き気やおう吐があるか確認しましょう。
- ・ 灯油、ガソリン、シンナー、除光液などは、揮発性ガスを吸い込んで化学性肺炎を起こす可能性があるため、絶対に吐かせず、すぐに病院を受診しましょう。
- ・ ボタン電池、硬貨、小さなおもちゃ、ピアスなどの装飾品は、吐かせずに病院を受診しましょう。



中毒110番(財)日本中毒情報センター

もし子どもが誤飲してしまったら、毒物(薬品、有毒植物など)の種類によって応急手当の方法が違います。下記にて、無料で情報提供しています。(通話料金はかかります。)

気持ちを落ち着けて行動しましょう。

大阪中毒110番 → ☎ 072-727-2499 (365日24時間対応)

つくば中毒110番 → ☎ 029-852-9999 (365日9時～21時対応)

たばこ専用回線 → ☎ 072-726-9922 (365日24時間テープ対応)

※中毒110番では、食中毒(細菌性)、慢性の中毒、小石・ピー玉などの異物誤飲については受け付けていませんので、最寄りの医療機関へご相談ください。